

〈新刊紹介〉

塩田雄大著

『現代日本語史における放送用語の形成の研究』

話しことばのモデルの一つとしてみなされてきた放送用語の形成の一側面を、「現代日本語史」の視座から明らかにする書。昭和初期からの放送用語の形成をめぐる具体的な議論や審議資料の分析をもとに、語彙・発音・アクセントにわたる「音声標準語」成立事情を解明する論考。2011年学習院大学に提出された博士学位論文をもとに増補改稿された書。

「はじめに」, 「1章 放送用語委員会」, 「2章 開始当初の放送に現れた日本語の「間違い」」, 「3章 最小の放送用語基準——1935年『放送用語の調査に関する一般方針』について——」, 「4章 音声標準語の確立にあたって課題の多かった分野——1939年『決定語彙記録(一)——』の分析から——」, 「5章 アクセント辞典の誕生——放送用語のアクセントはどのように決められてきたのか——」, 「6章 終戦前の辞典に示された複合動詞のアクセントをめぐる——帰納的記述と演繹的規範——」, 「7章 漢語の読み方はどのように決められてきたか——戦前の放送用語委員会における議論の輪郭——」, 「8章 「漢語の読みのゆれ」と『放送用語調査委員会決定語彙記録(一)』」, 「9章 放送における外来語——その「管理基準」の変遷——」, 「10章 スポーツ用語に見る外来語の扱い」, 「11章 放送用語と日本語史」, 「12章 本書のまとめと展望」。「各章初出一覧」, 「あとがき」, 「索引」。

(2014年9月1日発行 三省堂刊 A5判横組み 312頁 2,700円+税 ISBN 978-4-385-36458-2)

金水敏著

『そうだったんだ！日本語 コレモ日本語アルカ？』

——異人のことばが生まれるとき——』

「そうだったんだ！日本語」シリーズの第10巻。「これながいきの薬ある。のむよろしい。」フィクションの中で中国人を表象するこうした言葉遣いを〈アルヨことば〉と名付け、実在した話し方が元になっているのか、また歴史的にどのようにして中国人と結びつけられるようになったのかを明らかにする書。役割語としての〈アルヨことば〉のルーツと歴史的形成について探究すること、日清・日露戦争以降、日中戦争終結までの中国における言語実態を探り、それと〈アルヨことば〉との関連について考察する。

「序章 〈アルヨことば〉にまつわる疑問」, 「第1章 宮沢賢治は「支那人」を見たか」, 「第2章 横浜ことばとその時代」, 「第3章 〈アルヨことば〉の完成」, 「第4章 満洲ピジンをめぐる」, 「第5章 戦後の〈アルヨことば〉」, 「終章 「鬼子(ゲイズ)」た

ちのことば」。「引用テキスト」,「参考文献」,「あとがき」,「年表」,「索引」。

(2014年9月10日発行 岩波書店刊 四六判縦組み 248頁 1,800円+税 ISBN 978-4-00-028630-5)

下地理則・パトリック・ハインリッヒ編

『シリーズ 多文化・多言語主義の現在 6 琉球諸語の保持を目指して
——消滅危機言語をめぐる議論と取り組み——』

2010年東京外国語大学で開催された「第2回琉球継承言語のシンポジウム」の成果をまとめた書。琉球諸語をはじめとする消滅危機言語の復興・維持に関して、社会言語学、記述言語学、言語教育学の専門家たちの議論、コミュニティの現場におけるさまざまな取り組みを紹介する。巻末には、うちなーぐち継承活動家・比嘉光龍（ふいじゃばいろん）氏と言語学者・宮良信詳（みやらしんしょう）氏へのインタビューを収録。

「1章 琉球諸語研究——現在と将来——（下地理則・パトリック＝ハインリッヒ）」,「2章 「言語」と「方言」——本質主義と調査倫理をめぐる方法論的整理——（ましこ・ひでのり）」,「3章 日本の琉球諸語と韓国の濟州語の国際標準に向けて（マティアス＝ブレンツィンガー（訳新垣友子）」,「4章 北琉球諸語（奄美語・国頭語・沖縄語）の存続力と危機度（新永悠人・石原昌英・西岡敏）」,「5章 先島の言語危機と言語存続性（麻生玲子・下地理則・パトリック＝ハインリッヒ）」,「6章 琉球諸語の継承を取り戻す——ハワイ語復興運動の例から——（大原由美子・スコット＝サフト）」,「7章 言語使用領域を維持および復興する（松尾慎）」,「8章 琉球諸島における言語政策の作成と導入（ジョー＝デキキス）」,「9章 言語意識と言語使用の変革（大角翠）」,「10章 琉球弧のメディアを巻き込む（杉田優子）」,「11章 琉球諸語教育の教材を作るために——時代に求められる組織言語管理の観点から開発の方向性を探る——（サウクエン＝ファン）」,「12章 うちなーぐち継承活動の動向と課題〈インタビュー 比嘉光龍&宮良信詳〉」。

(2014年9月15日発行 ココ出版刊 四六判縦組み 372頁 2,400円+税 ISBN 978-4-904595-50-3)

公益財団法人東洋文庫監修／石塚晴通・小助川貞次解題

『東洋文庫善本叢書 1 国宝 史記——夏本紀 秦本紀——』

東洋文庫所蔵の貴重古典籍全16点（国宝5点と重要文化財6点を含む）を、全12巻全編フルカラー原寸で影印するシリーズの第1巻で、司馬遷が撰述した中国最古の通史『史記』の注釈書である『史記集解』を院政期に書写した二巻の影印である。二巻同筆ではないが、同時期の書写によるもので、巻首には高山寺の朱印、本文には墨書の古訓、朱のヲコト点を有し、紀伝道の家に伝来したものとみられる。影印の「史記 夏本紀」と「史記 秦本紀」、「史記 夏本紀・秦本紀——解題——（石塚晴通・小助川貞次）」を収載する。

(2014年9月16日発行 勉誠出版刊 A3判変形縦組み 112頁 25,000円+税 ISBN 978-4-585-28201-3)

公益財団法人東洋文庫監修／豊島正之解説

『東洋文庫善本叢書 2 重要文化財 ドチリーナ・キリシタン
——天草版 影印——』

東洋文庫所蔵の貴重古典籍全 16 点（国宝 5 点と重要文化財 6 点を含む）を、全 12 巻全編フルカラー原寸で影印するシリーズの第 2 巻で、八折（octavo）1 冊の 1952 年天草イエズス会コレジョ刊、ラテン文字（ローマ字）活字横書き印刷による、所謂「キリシタン版」である。1952 年に書名「ドチリーナ・キリシタン」として重要文化財（第 01536 号）指定を受けたものである。イエズス会が刊行した日本語の問答体教義書としては、キリシタン版の前期版・後期版各 2 種、合計 4 種 4 本が現存するが、本書は問答体教義書（1566 初版）の翻案で、前期版ローマ字本としては孤本である。「ドチリーナ・キリシタン——影印——」, 「ドチリーナ・キリシタン——解説——（豊島正之）」を収載する。

（2014 年 9 月 16 日発行 勉誠出版刊 四六判横組み 160 頁 14,000 円＋税 ISBN 978-4-585-28202-0）

澤田治美編

『ひつじ意味論講座 3 モダリティ 1：理論と方法』

モダリティ研究のための理論と方法を論じる書。モダリティは、事柄はどう捉えられているのかや、話し手は聞き手にどのような心的態度で接し、そのような言語行為を成しているかを表す意味のカテゴリーであるが、その細かな内実は言語ごとあるいは時代ごとに異なる。モダリティとは何か、という問いに対し、様々な分野・枠組み・言語からアプローチを試みる。ひつじ意味論講座の第 3 巻で、第 4 巻『モダリティ 2——事例研究——』による実証的な事例研究と組み合わせることで現代のモダリティ研究の全貌に接する。

「序論（澤田治美）」「1 モダリティの定義をめぐって（ナロック＝ハイコ）」、「2 論理学におけるモダリティ（飯田隆）」、「3 モダリティの類型論（堀江薫）」、「4 日本語モダリティの分類（仁田義雄）」、「5 文の意味的階層構造と叙述の類型（益岡隆志）」、「6 否定・疑問とモダリティ（安達太郎）」、「7 日本語モダリティの史の変遷（近藤泰弘）」、「8 古代語のモダリティ（高山善行）」、「9 英語モダリティの分類と否定の作用域（澤田治美）」、「10 ムードの意味（安藤貞雄）」、「11 スペイン語におけるムードとモダリティ（和佐敦子）」、「12 フランス語におけるムードとモダリティ（阿部宏）」、「13 ドイツ語におけるムードとモダリティ（宮下博幸）」。

（2014 年 9 月 18 日発行 ひつじ書房刊 A5 判横組み 286 頁 3,200 円＋税 ISBN 978-4-89476-503-0）

今野真二著

『日本語学講座 9 仮名の歴史』

単独著者による全 10 巻予定の講座の第 9 巻「仮名の歴史」。日本語を書くための文字である仮名の機能の変遷を、漢字を視野に入れながら考える。

「序章 日本語の文字化——表意的表記と表音的表記と——」, 「第 1 章 万葉仮名」, 「第 2 章 片仮名・平仮名・草仮名」, 「第 3 章 中世の仮名」, 「第 4 章 近代の仮名」, 「終章」。

(2014 年 9 月 20 日発行 清文堂出版刊 A5 判縦組み 224 頁 3,500 円+税 ISBN 978-4-7924-1025-4)

沖森卓也・曹喜澈編著

『日本語ライブラリー 韓国語と日本語』

日本語も韓国語も言語類型論においては膠着語に分類され、アルタイ諸語の系統であることを予想されるが、語彙において音韻対応の事例を列挙することができず、現段階では両言語とも言語統計論において孤立している。両言語の構造や運用など、様々な面から対照研究を行い、韓国語と日本語の特徴と関係を考える。

「1 代名詞 (金智賢)」, 「2 活用 (永原歩)」, 「3 助詞 (塚本秀樹)」, 「4 動詞 (塚本秀樹)」, 「5 形容詞 (永原歩)」, 「6 文のモダリティ (金智賢)」, 「7 態 (ボイス) (生越直樹)」, 「8 テンスとアスペクト (石賢敬)」, 「9 副詞 (李勇九)」, 「10 共起関係 (石賢敬)」, 「11 敬語 (姜英淑)」, 「12 日韓同形異義語 (曹喜澈)」, 「13 親族語彙 (吉本一)」, 「14 類義語 (吉本一)」, 「15 擬声語・擬態語 (姜英淑)」, 「16 韓国のことわざ・慣用句 (曹喜澈)」, 「17 漢字音 (沖森卓也)」, 「18 韓国人の身体言語 (曹喜澈)」, 「索引」。

(2014 年 9 月 20 日発行 朝倉書店刊 A5 判横組み 160 頁 2,600 円+税 ISBN 978-4-254-51612-8)

石黒圭・橋本行洋編

『話し言葉と書き言葉の接点』

日本語学会 2013 年度春季大会 (大阪大学) において行われた学会シンポジウムをもとにした論文集。シンポジウムのパネリストに本テーマに関わる第一線の研究者を加えた、計 13 名による考察。フィクションの言葉やヴァーチャル方言、語用論的視点やコーパスによる視点をとりあげた共時的研究から、古代語や鎌倉時代、明治時代の言葉などをテーマとする通時的研究まで、言語研究の各方面から書き言葉・話し言葉へ迫る。

なお、本書は、ひつじ研究叢書言語編第 122 巻として刊行された。

「I 共時的研究」は、「フィクションの話し言葉について——役割語を中心に—— (金水敏)」, 「話し言葉が好む複雑な構造——きもち欠乏症を中心に—— (定延利之)」, 「ヴァーチャル方言の 3 用法——「打ちことば」を例として—— (田中ゆかり)」, 「疑似独話と読み手意識 (野田春美)」, 「話し言葉と書き言葉の語用論——日本語の場合—— (滝浦真人)」, 「現代日本語の多

重的な節連鎖構造について——CSJとBCCWJを用いた分析——（丸山岳彦）, 「指示語にみるニュースの話し言葉性（石黒圭）, 「文字の表音性（屋山池誠）。「Ⅱ 通時的研究」は, 「古代における書きことばと話しことば（乾善彦）, 「鎌倉時代口語認定に関する一考察——延慶本平家物語による証明可能性をめぐる——（山本真吾）, 「明治前期の手紙文にみられる「口語体」（野村剛史）, 「書かれたはなしことば（今野真二）, 「『全然』とその振り仮名（橋本行洋）」。

（2014年9月22日発行 ひつじ書房刊 A5判横組み 292頁 5,600円+税 ISBN 978-4-89476-708-9）

金水敏編

『〈役割語〉小辞典』

本書は, 「役割語」を構成する代表的な言葉を解説し, 役割語への理解を深めるとともに, 創作へのヒントともなることをめざした辞典。特定のキャラクターと密接に結びついた言葉づかいである「役割語」について, 〈老人語〉〈お嬢様語〉〈武士ことば〉などと定義をした上で, 役割語としての語義や成り立ち, 使用場などを辞書風に解説する。見出し項目は約120語で, 簡単な語義, その成り立ちや意味の変遷を説明し, 役割語としての使用場や, お嬢様・博士・武士などの使用キャラクターを例示する。

冒頭に「はしがき」, 「役割語とは何か——この辞典を利用する前に——」, 「凡例」, 「見出し語一覧」と, 末尾に「引用出典一覧」, 「役割語名索引」を付す。

（2014年9月30日発行 研究社刊 四六判縦組み 268頁 2,000円+税 ISBN 978-4-7674-9113-4）

文化庁文化部国語課著

『国語に関する世論調査』

——平成25年度 コミュニケーション・読書・言葉遣い——』

現在の社会状況の変化に伴う日本人の国語意識の現状についての調査を行い, その結果をまとめた報告書である。調査時期は2014（平成26）年3月1日～3月16日, 調査対象は16歳以上の男女で, 3千人を無作為抽出し, 調査員による面接聴取によって2,028人から有効な回答を得た。

平成25年度は「コミュニケーション, 読書, 言葉の使い方」をメインテーマに, 「言葉や言葉の使い方に対する社会全体の関心」, 「初めて会った人と打ち解けるまでの時間」, 「相手の個人的なことを知る必要があるか」, 「1か月に読む本の冊数」, 「電子書籍の利用」, 「敬語を身に付けた機会」, 「気になる言葉の使い方」などを調査し報告した。

（2014年9月30日発行 ぎょうせい刊 A4判横組み 250頁 3,888円+税 ISBN 978-4-324-09910-0）

近藤聖欣監修，木村晟・片山晴賢編

『北大寺学術研究書 4 高野山大学図書館蔵 節用集』

永禄2年本系「節用集」の一種である高野山大学図書館収蔵の『節用集』上下巻を影印として公開した書。室町時代末期の写本で、宮内庁書陵部蔵の『堯空本』や京都大学付属図書館蔵の『経亮本』と同じく、零本ではなく完本であり、節用集研究上重要な資料である。

(2014年10月1日発行 港の人刊 A5判縦組み 213頁 12,000円+税 ISBN 978-4-89629-284-8)

青木博史・小柳智一・高山善行編

『日本語文法史研究 2』

本書は日本語文法の歴史的研究をテーマとする論文集で、『日本語文法史研究 1』(2012年)に続く隔年刊行の2冊目である。今回は、文法カテゴリーや文法用語、個別の文法形式や表現法の史的変化などをとりあげた10編と、巻末付録として「テーマ解説」「文法史の名著」「文法史関係文献目録」を収める。

「事象の形と上代語アスペクト(竹内史郎)」、「「属性」と「統覚」とそのあいだ——中間的複語尾の位置づけ——(仁科明)」、「いわゆる「公尊敬」について(吉田永弘)」、「日本語疑問文の歴史変化——上代から中世——(衣畑智秀)」、「接続助詞「のに」の成立をめぐって(青木博史)」、「動作を促す感動詞「ソレ／ソレソレ」の成立について(深津周太)」、「近世における副詞「どうも」の展開(川瀬卓)」、「行為指示表現としての否定疑問形の歴史——上方・関西と江戸・東京の対照から——(森勇太)」、「近世江戸語のハズダに関する一考察——現代語との対照から——(岡部嘉幸)」、「「主観」という用語——文法変化の方向に関連して——(小柳智一)」、「【テーマ解説】アスペクト(福沢将樹)」、「【テーマ解説】条件表現(矢島正浩)」、「【文法史の名著】濱田敦・井手至・塚原鉄雄著『国語副詞の史的研究』(西田隆政)」、「日本語文法史研究文献目録 2012-2013」、「索引」。

(2014年10月15日発行 ひつじ書房刊 A5判横組み 300頁 3,200円+税 ISBN 978-4-89476-742-3)

公益財団法人東洋文庫監修／會谷佳光解題

『東洋文庫善本叢書 3 重要文化財 楽善録——宋版・円爾旧蔵 影印——』

本書は、東洋文庫所蔵の貴重古典籍全16点(国宝5点と重要文化財6点を含む)を、全12巻全編フルカラー原寸で影印するシリーズの第3巻である。「楽善録」は南宋・四川眉山の人李昌齡が著した、所謂「善書」の一つで、古今の典籍や伝聞から勧善懲悪・因果応報を説いた逸話を収録する。成書後まもなく刊行され、紹定2年(1229)年に会稽の郡斎で重刊された南宋版で、全五冊(原装三冊)、180丁、恵日山東福寺の開山聖一・国師円爾弁円旧蔵であった。「楽善録——影印——」、「楽善録——解題——(會谷佳光)」と、

解題末尾に『楽善録』収録逸話の一覧表を付す。

(2014年10月16日発行 勉誠出版刊 A4判縦組み 400頁 70,000円+税 ISBN 978-4-585-28203-7)

公益財団法人東洋文庫監修／豊島正之解説

『東洋文庫善本叢書4 サクラメンタ提要——長崎版——』

本書は、東洋文庫所蔵の貴重古典籍全16点(国宝5点と重要文化財6点を含む)を、全12巻全編フルカラー原寸で影印するシリーズの第4巻で、quatro(四折)本一冊、1905年長崎イエズス会コレジョ刊、ラテン語文字横書きによる、所謂「キリシタン版」(現存十本中の一本)の影印である。ラテン語を主とし、所々にポルトガル語と日本語(ローマ字書き)を交える。一般には「サクラメンタ提要」とも呼ばれる。第三代日本司教セルケイラ(Luis Cerqueira, 在職1598-1614年)を著者とする洗礼・告解・聖餐・婚姻・終油の秘跡の典礼儀式書である。「サクラメンタ提要——影印——」,「サクラメンタ提要——解説——(豊島正之)」を収載する。

(2014年10月16日発行 勉誠出版刊 四六倍判横組み 468頁 57,000円+税 ISBN 978-4-585-28204-4)

松井利彦著

『女中ことば集の研究——女性語の制度化と展開——』

「女房ことば」と、「女中ことば」を武家礼法として制度化された女性語と捉え、これを基軸にして中世後期以後の女性語集の諸事象を考察した書。筆者の50年に渡る女性語研究をまとめる。

武家の女性語として公家の女性語を取り入れた「女房ことば」と、近世の武家社会において女性の礼法として定められた女性語でのちに町人層などの女性にも広まる「女中ことば」について、それらのありのままの姿、また互いの関連を示す。附録に、元禄五年本『女中詞』(国立国会図書館蔵)、安永五年本『女言葉』(姫路文学館蔵)の影印を採録。

「はじめに」,「序章 女中ことば集の成立」,「第1部 伝書系の女中ことば集」は、「第1章 伝書系女中ことば集の编者」,「第2章 奥書をもつ女中ことば集」,「第3章 伝書としての女中ことば集」。「第2部 女性書系の女中ことば集」は、「第1章 女性書の女中ことば集の整理」,「第2章 女性書の女中ことば集の名称」,「第3章 女性書の女中ことば集の位相」,「第4章 女中ことばの終焉と展開」。「第3部 女中ことば集の背景」は、「第1章 中世後期の故実的世界における敬語生活」,「第2章 『日葡辞書』の女性語」,「第3章 武家礼法としての女中ことば——「くさむすび」の成立事情——」。「第4部 公家ことばの諸相」は、「第1章 中世後期における公家社会の女性の表現」,「第2章 公家社会の女性語——中世後期の擬態語をめぐって——」,「第3章 公家社会の女性語の伝播——「するすと」の場合——」。「終章」,「おわりに」,「附録 女中ことば集影印」,「附表 女中ことば集一覧」,「索引——事項・語句——」,「索引——人名・書名——」。

(2014年10月20日発行 武蔵野書院刊 A5判縦組み 640頁 14,000円+税 ISBN 978-4-8386-0278-0)

齊木美知世・鷲尾龍一編著

『国語学史の近代と現代』

国語学史と言語学史の融合を試みる研究プロジェクトに取り組んできた著者らによる日本語研究史の論考に、「第1章 研究史の諸問題」を付して一書としたものである。従来の研究史が未解決のまま残していた問題を解決することで、研究の新たな展開に不可欠な基礎を提供した「第2章 『日本文法論』とハイゼの独逸文典」と「第3章 『日本文法論』とハイゼの独逸文典Ⅱ」、文法用語の初出認定に関わる「定説」の修正を提案した「第4章 Lijgend/Passive の記述起源——「受身」「働掛」および「助動詞の初出文典をめぐって——」、従来の研究史に矛盾した記述が見られるという事実を指摘し、その背景を考察した「第5章 那珂通世『国語學』の来歴」、これまでの研究史には含まれていない、新たな記述的系譜を再構成した「第6章 大槻文彦と Chamberlain の系譜」、ある古典的著作の評価をめぐって、従来とは異なる視点からその現代的意義を論じた「第7章 言語の“Genius”と「國語の本性」——個別言語の特性をめぐるいくつかの学史的問題——」に、「初出情報と内容紹介」、「引用文献」、「索引」を付す。

(2014年10月26日発行 開拓社刊 A5判横組み 334頁 3,800円+税 ISBN 978-4-7589-2204-3)

川口良著

『丁寧体否定形のバリエーションに関する研究』

本書は、「バリエーション」を有する「丁寧体」に着目し、中でも、否定形に存在するマセン形とナイデス形を「ことばのゆれ」すなわち言語変異（「バリエーション」）として取り上げる。その否定丁寧形の「規範」について明らかにし、マセン形とナイデス形を実際の「話しことば」において観察することによって、丁寧体否定形に起きつつある言語変化の方向性を予測することを目的としている。

研究課題として以下の3点を設定した。(1)マセン形とナイデス形の文法的な性質とはどのようなものか。(2)丁寧体否定形の「規範」はいつ頃どのようにして成立したのか。(3)現代日本語における丁寧体否定形の「バリエーション」（マセン形とナイデス形）は、どのような言語変化の方向性を示唆しているか。

なお、本書は、2012年お茶の水女子大学に提出した博士学位論文に加筆修正したものである。

「序章」、「第1章 文法論における「丁寧体」について」、「第2章 丁寧体否定形の「規範」について」、「第3章 動詞否定丁寧形の「バリエーション」について」、「終章」。「文献資料一覧」、「参考文献」、「参考資料」、「索引」。

(2014年10月26日発行 くろしお出版刊 A5判横組み 272頁 3,800円+税 ISBN 978-4-87424-637-5)

藤本幸夫編

『日韓漢文訓読研究』

平成 21 年～23 年秋の麗澤大学「日・韓訓読シンポジウム」での講演に基づく論集。

中国周辺に位置した朝鮮半島諸国や日本では、文字・典籍を受容するに際し、そこに記された漢字・漢文を自国語のシステムに置き換えて読解する方法が構築されていった。その痕跡は、典籍類や木簡などに墨書されたもののみならず、近年日韓において研究の進展を見せる角筆資料にも残り、異言語受容の実態をいまに伝えている。角筆資料の発見により明らかになりつつある朝鮮半島における漢文訓読のあり方やその日本への影響の可能性、漢字・漢文受容によってもたらされた各国の言語文化における言語的・思想的展開について、日韓の最先端の研究者を集め論究、東アジアにおける漢字・漢文理解の方法と思想を探る。

「第 1 部 東アジア漢字・漢文文化圏と訓読」は、「日韓の漢文訓読（釈読）の歴史——その言語観と世界観——（金文京）」、「日本の訓点・訓読の源と古代韓国語との関係（小林芳規）」、「韓国の借字表記法の発達と日本の訓点の起源について（南豊鉉）」、「日本所在の八・九世紀の『華嚴經』とその注釈書の加点（再考）（小林芳規）」、「日本における十世紀加点の漢籍訓点資料の位置（小助川貞次）」、「古代日本語の書記方法における漢字の音よみ訓よみ用法の「精錬」度（犬飼隆）」、「日本古代における歌の表記——木簡と正倉院文書を素材として——（栄原永遠男）」、「宋版一切經に書き入れられた中国の角筆点——醍醐寺藏本を基に東アジア經典読誦法を探る——（小林芳規）」、「ウイグル漢字音と漢文訓読（庄垣内正弘）」。「第 2 部 韓国における漢文訓読の展開と諸相」は、「韓国の口訣資料および口訣研究の現況について 附研究文献目録（呉美寧）」、「朝鮮吏文の形成と吏読——口訣の起源を摸索しながら——（鄭光）」、「木簡に見られる古代韓国語表記法——吏読の発達史を中心に——（金永旭・著／伊藤貴祥・訳）」、「百済の文字生活（鄭在永）」、「韓国釈読口訣に関する総合的考察（張允熙）」、「周本『華嚴經』点吐口訣解読の成果と課題（朴鎮浩・著／河崎啓剛・訳）」、「角筆口訣の解読方法と実際（李丞宰・著／伊藤貴祥・訳）」、「韓国の漢文訓読に使われた符号について（張景俊・著／文玄洙・訳）」、「東洋文庫所蔵『牧牛子修心訣』に就いて（藤本幸夫）」。

（2014 年 11 月 1 日発行 勉誠出版刊 A5 判縦組み 582 頁 10,000 円＋税 ISBN 978-4-585-28015-6）

佐藤武義・前田富祺編集代表

『日本語大事典』

本書は、言語学や日本語学の成果をふまえて日本語そのものの世界を描き出すことで日本語ということばを知ることができる内容をめざした、日本語学の総合事典である。現在の日本語をとりまく環境の変化を複合的・多角的にとらえ、日本語学・国語学・日

本語教育学・言語学の関連用語・人物・資料・研究文献などの約 3500 項目を、研究者から日本語学・国語教育・日本語教育に関心がある一般の人々向けに解説した。

巻末に、付録として、「日本語年表」、「主要総索引目録」、「古辞書影印本目録」、「日本語学・関連分野各種受賞者一覧」がある。索引として、「事項索引」、「書名索引」、「人名索引」を付す。

(2014 年 11 月 6 日発行 朝倉書店刊 B5 判横組み、2 巻セット 上 1268, 下 1188, 計 2456 頁 75,000 円 + 税 ISBN 978-4-254-51034-8)

佐藤志帆子著

『近世武家社会における待遇表現体系の研究
——桑名藩下級武士による『桑名日記』を例として——』

近世末期桑名藩の下級武士・渡部平太夫によって書かれた『桑名日記』における待遇表現について、人間関係や場面、武家の生活実態や社会構造といったさまざまな外的要因と関わらせながら、待遇表現の運用実態や体系の性格を明らかにした書。近世武家社会における待遇表現のすがたを明らかにするなかで、ひとつの地域社会に複数の待遇表現の体系が併存していることの意味を問う。第 1 部で待遇表現の使い分けの要因について整理し、第 2 部で場面の性質と形式の対照によって待遇表現体系を明らかにした。第 3 部では述部待遇表現形式と人称名詞の体系を総合し待遇表現体系の性格を考察した。

なお、本書の内容は博士論文（東北大学大学院文学研究科、平成 22 年度）に加筆修正したもので、和泉書院研究叢書 451 として発刊された。

内容は次のようである。

冒頭に、「序章 研究の目的と方法」。「第 1 部 『桑名日記』と近世末期桑名藩の下級武士とその家族」は、「第 1 章 『桑名日記』と桑名藩に残る歴史史料」、「第 2 章 『桑名日記』に登場する藩士とその家族の属性」、「第 3 章 近世末期桑名藩の下級武士とその家族の生活」。「第 2 部 『桑名日記』にみる近世末期桑名藩の下級武士とその家族の待遇表現」は、「第 4 章 「来ル」を意味する尊敬語」、「第 5 章 命令形による命令表現」、「第 6 章 授受補助動詞クレル類命令形による働きかけの表現」、「第 7 章 述部待遇表現形式の体系間における待遇価値の異同」、「第 8 章 人称代名詞」。「第 3 部 近世末期桑名藩の下級武士とその家族の待遇表現体系の性格をめぐって」は、「第 9 章 第三者待遇表現の運用上の特質」、「第 10 章 待遇表現の使い分けに関わる場面の内実——平太夫の一日の生活に着目して——」、「第 11 章 体系分化の方向性と社会構造との相関からみた待遇表現体系の性格」、「第 12 章 近世末期桑名藩の下級武士とその家族の武家のことばとしての待遇表現体系」。「終章 近世語研究への展望」。冒頭に自筆本『桑名日記』と『桑名御城下之圖 折一枚』の図版、末尾に「史料一覧」、「参考文献」を付す。

(2014 年 11 月 25 日発行 和泉書院刊 A5 判横組み 344 頁 10,000 円 + 税 ISBN 978-4-7576-0723-1)